

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム みつばちハウス

日付 平成18年3月31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年
評価調査員 在宅介護経験12年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

グループホームの基本的な運営方針は「家族との絆を大切に、アットホームで健やかな暮らしを支援する」とあるが、2ユニットの具体的な日常生活は管理者や職員の独自性を生かしており、その利用者の性格や特性によって雰囲気が多様になっている。

1階と2階にユニットで別れて、玄関から階段とエレベーターで個別に訪問できる。各玄関を入ると広いリビングルームがあり、食堂テーブルが3つ並び、窓際にソファセットが、もう一つ木製の丸テーブルセットがある。ソファに男性の利用者が座り、新聞を読んでいる。「お邪魔します。今日はここで皆さんと一緒に過ごさせて下さい」と挨拶すると「いらっしゃい、ゆっくりして下さい」と私達を受け入れてくれた。食卓の上では、女性利用者が昼食の準備をしている。同じように挨拶後「きれいに切られますか」「そうね、ずっと作ってきたからねえ。毎日手伝っているよ」等、利用者との会話が始まった。

両ユニットで、食事の献立も違う。一方は「ちらし寿し」、他方は「ハヤシライス」が主食だった。献立はきちり決めている訳でなく、利用者の希望や在庫の食材で「今日はこれにしようか」と決めていき、自由度がある。普通の家庭のようで、近くの菜園があるので暖かくなると、散歩がてら畑で献立が決まるかも知れない。食事の時は職員も一緒に食べ話題も賑やか、「おいしい」「まずい」「今日のご飯は好きや」「いや、きらいだ」と自由に自分の意見を出し合う間柄でもある。じっくり時間をかけて食べる人もいる。色々な出来事や話題をきっかけとして、利用者の思いや気持ちを引き出してケアをしっかりとっている、グループホームである。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

グループホームが9人の利用者で生活しているという原点を考えて頂き、「個人の自由な暮らし」と「9人の共同生活の場である」ことが共存できるケアをしていくにはどうすれば良いのか、よく研究してみたい。そこで次の提案をしておきたい。

食餌の時、テーブルに着いている人だけで良いので、誰かに当番を決めて「いただきます」と挨拶をして、みんな一緒という感覚を持ってもらえる習慣をつけるには如何でしょうか。

一人ひとりの個性や趣味を生かして、その人の作品づくりに輪を広げていくような支援ができないか。広いリビングルームの一劃に展示コーナーをつくるとか。

ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

レクリエーションの記録も見ていると具体的な言葉や行動が詳しく書いてあり、読んでいるとその時の様子が目に浮かび楽しそうである。さんの乗った車椅子をさんが押して近所の幼稚園の運動会に行った時のことが書いてあり、利用者同士で助け合って生活していることが分かる。このような記録と写真などを混えて思い出話をするのも良いと思う。春になると、近くに借りている菜園がある。農業をしていた人も多いため、種蒔きしたり、収穫したりで楽しそうだ。利用者の能力や趣味を生かして、利用者の出来ることをさせてあげており、それぞれの人の作品も見ることが出来て、グループホームの宝としている。利用者一人ひとりを大切にしていることが良く分かる。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

2つのユニットが上下階にあり、その屋上が共通の広場となって楽しみの場所でもある。この地域の人や家族も混えてレクリエーションを通して交流している。幼稚園の運動会に招かれ、みつばちハウスの出番もプログラムに作ってくれていた。ボランティアの人が来訪されたり、毎年蒸まで訪れる。玄関に集作りしてくれて、生徒が通学の途中に、立ち寄ってくれ利用者とも話ができるきっかけづくりにしてくれている。法人全体の行事にも参加でき、楽しみの多いグループホームである。

このような境遇の中、各ユニットの管理者や職員はケアの質やサービスの向上に悩みながらも、利用者の幸せを願いながら頑張っている。自信を持って更なる発展を期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	ケアに関する質問(アンケート)をすると、1つのユニットの管理者は「一人ひとりの個性を生かし、楽しみにつなぐ。集団ケアと個別ケアで行う。職員を含めた擬似家族と認識し、個人の気持ちを尊重し、感情を素直に表現できる雰囲気づくりをする。もう1つの管理者は「本人の主体性を尊重し、人生を大切に経験や思い出を引き出すよう気配りする。その人らしさの生活スタイルを尊重して個別ケアを大切に。利用者のゆったりとした流れを大切に。2つのユニットは共通するところもあるが、相違点もある。良い悪いではないが、この主張が利用者の生活の雰囲気を感じられた。リビングルームは童謡や民謡のBGMが流れ、利用者は自分の行動をしながら、ふとその歌を口ずさんでいる。日々の生活の中で、利用者一人ひとりが自由に楽しくゆったりとした時間が過ごせるよう職員はケアをしている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	外観から想像した印象からすると、ゆったりとした空間の中で利用者が自由に過ごしている様子で安心した。既存の建物を利用しているので、管理者も思いのまゝという訳にはいかないが、そのレイアウトを理に叶うよう上手に利用出来ている。リビングルームは、食卓テーブルの他にテレビを見るソファや壁沿いに並べた数脚の椅子があり、利用者はその場所を自由に使っていて、仲良く時を過ごしている。居室2室に一つの共用トイレがあり、「あなたとわたしのトイレ」として使っている。居室にあるトイレより使いやすい利点がある。屋上は、日光浴もできるし、周辺の眺望も良く360度のパノラマである。夏には近所の人や家族も参加して夕涼み祭りを楽しんでいる。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		